



令和2年1月号 Vol.29
情報メディア教育センター

令和2年の年始め！

みなさん、年末年始はいかがお過ごしでしたか？



いきなりですが、今月から大河ドラマ『麒麟がくる』が始まりますね！明智光秀を中心に織田信長、斎藤道三、今川義元が天下を狙って駆け巡る…、いやぁ楽しみ。「麒麟」は中国で「王が仁のある政治

を行う時に必ず現れるという聖なる獣」とされています。

世を立て直す麒麟とは誰なのか、そしていつ来るのか…。

新たな年の幕開けと共に、東海地方出身の戦国武将たちの活躍を待ちわびる今日この頃です。



迎春 難読漢字も、読んどく感じて

あけましておめでとうございます。新しい年がはじまりました。

「読めるものなら読んでみな」と難読漢字を一日一題、昨年12月から始めたカウンターの挑戦状が、No.25 を超えました。毎日挑戦してくれる人もいたりして、目下注目度上昇中！というわけで、これを踏まえて新年のご挨拶です。□で囲んだ難読漢字、さぁ！いくつ読めるか試みましょう。

さて、みなさんの令和元年はどうでしたか。個人的にはラグビーワールドカップ、予想外に感動してしまいました。ゴリマッチョのぶつかり合いなんてと然したる興味はなかったんですが、宛選手個人の隠れた努力に心動かされ、うまく言えないですけど、あのチーム全体が前に前にと突き進むフォーメーションもどこか芸術的にも感じました。そう、いわゆる俄ファンというやつです。努あのゴリゴリの中でプレーしたいなんて思いませんが(笑)、やはり想像を超えてくるものは、心に刺さりやすいものです。なので良くないコトをわざわざサプライズにするなんてのは、滅法趣味の悪い話で、信頼関係も丸つぶれです。くれぐれもご用心を！！

卒ながら、ここで一つご報告が…12月末で司書の大迫さんが退職されました。昨年5月からの約7か月間でしたが、センス抜群で、仰から何でも卒なく熟ていただきました。ご家庭の都合なので仕方ないのですが、人材不足が常態化するEMCの救世主として、無くては成らない方でしたのでとても残念です。さみしくなりますね。大迫さんいろいろとありがとうございました。お疲れさまでした。

自分自身で、悪いニュースをサプライズにするなんてと扱き下ろしておいて…みなさんに隠すつもりはなかったんですが、ご本人の希望でしたのでお許しください。

最後になりましたが、今年の抱負！EMCが、EMCでいられるように頑張りたいと思います！！（お！意味深）

ところで、難読漢字いくつ読めましたか？ 正解はカウンターまで。 今年もよろしくお願いします。

(情報メディア教育センター 坂下)

《大迫さんからみなさんへのメッセージです》

みなさんと関わる日々は新鮮で、毎日楽しくあっという間でした。もっとみなさんと一緒に成長し、過ごしたかったです。最後にアドラーの言葉を。「人間は自分の人生を描く画家だ」素敵な人生を描いていってくださいね！！



中学生が描いてくれた大迫さん

これは坂下くもはや悪口！

新着図書ピックアップ

『読書間奏文』

藤崎 彩織 【著】

四人組バンド“セカオワ”のピアノ演奏担当のナント藤崎さんの著書。まるで音楽を奏でるように、読書を間奏に入れて、自分自身の子どもの頃からバンド生活まで綴ったエッセイです。初小説『ふたご』は直木賞候補に上がり、その苦労話も。著者の読書量は幅広く驚きです！太宰治や芥川賞受賞作家たちの村田沙耶香『コンビニ人間』、又吉直樹『火花』、またドイツ在住の和田葉子の作品など…いじめを受けたことも明らかにし、生徒の皆さんにもきっと寄り添える本だと思います。(黒川)



『世界をカエル10代からの羅針盤 脱・呪縛』

鎌田 実【著】 こやま こいこ【絵】

10代の君だけじゃない。大人だって自分に執着して、知らず知らずに小さな世界に閉じこめているんじゃないかな。「自分のためだけで生きないように。困っている人がいれば手を差し伸べてあげるのが人のやるべきこと」と医師の著者は言う。男子と女子の接し方なんてお互い考え方が違うから難しいよね。そんな身近なことも全力で語る中で、挿絵はかわいくて、気分もリラックスできます。この本は何回も借りて読むことお勧めです(黒川)



『世界一美味しい手抜きごはん』

はらぺこグリズリー【著】

みなさん、料理ってしますか？普段料理しない人も、年の初めだし、今年は挑戦！ってのも良いんじゃない？(‘w’)ノこの本はコンビニやスーパーですぐ手に入る食材で、料理をしたことがないor得意じゃない人でも取り掛かりやすい工程のレシピが満載。アプリで感覚的にレシピ検索も良いけど見開きで一目瞭然の料理本も、おすすめ。(大迫)



『歩道橋シネマ』

恩田 陸【著】



18編からなる、ホラー・SF寄りの短編集。ブラックユーモアあり、青春ミステリーあり、日常に潜む闇をSFファンタジーのように切り取った作品あり…。とにかく、この本の中には多種多様な世界観が広がっています。ちなみに恩田陸さんの本では同じく短編集の『図書館の海』や長編の『ネバーランド』も面白いよ、あなたも恩田ワールドをお試しあれ☆ (大迫)

新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。

